

* ワークショップ

「未来ある子どもたちのために
私ができること」

WS「未来ある子どもたちのために私ができること」

まなび里をつくろう

～地域の魅力に気づき、学びを生かすことができる、まなび里をつくろう～

まなび里とは・・・

- ・「まなび力」を开花させ、活躍する機会にあふれた里
- ・「まなび力」を生かしながら、地域の課題解決や活性化につながる里

各地域や各世代で感じている地域課題は多岐にわたるため、それぞれの役割において改善や解決に取り組んでいくことが大切です。市民が地域に関心を持ち、まちの魅力を高めていくために、歴史や文化を生かした学びを充実させるとともに、学びの成果を活用した課題解決に取り組めるよう、地域活動団体や市民活動団体等の活動を促進します。

また、本市のさらなる発展をめざして、学びによる地域福祉の推進や産業振興、定住促進等の様々な分野における新たな取り組みが生まれるよう支援します。

以上のことから、「まなび里」をつくっていくための取組課題として、「学びで地域の魅力を見つける」「学びのまちをつくる」「学びからまちを活性化する」の3つを設定し、これらの課題解決に向けた施策を展開することで目標達成を目指します。

WS「未来ある子どもたちのために私ができること」

【ワークショップのねらい】

- 「まなび里」を、「まなび人」が増えて「まなび力」が培われた結果として(自然に)できあがるものと考えるのではなく、「まなび力」を発揮して、「まなび里」を運営する人材・組織・仕組みをつくり、「まなび人」を増やす「機会」という視点から考える。
- そのために「まなび里」となる具体的な機会(イベント、催し、大会等)の洗い出しをする。
- あるいは新たな機会を提案する
- それらの課題や可能性を検討する。
- それらを運営していくために必要な「まなび力」を考える。

WS「未来ある子どもたちのために私ができること」

【ワークショップの方法】

1. テーブルごとに「司会」と「発表者」を決めます。
2. 模造紙は、「自分のメモ」としてご使用ください。
3. 気になるキーワードが出れば、同じ意見や関係する意見
どおしをつなぎ、そこから考えられる新たな課題や新たな
取組みがあれば空欄に書き加えてみてください。
4. 司会は、各テーブルの意見が出やすいように。
せっかくなので、楽しく！

WS「未来ある子どもたちのために私ができること」

<セッション1>

① 地域の中で、触れあい・学びあう「機会」はあるか それはどのようなものか

- ・ これまでどのような関わりがあったか？
- ・ 学校と地域、地域住民との触れあい、学びあう「機会」はあるか？

② それらの「機会」に改善すべき課題はあるか

- ・ 地域と学校との連携や協働の取組みをするために、どのような課題があるか？

③ 「まなび里」として結実する可能性はあるか

- ・ 高齢者や女性などもっている力を十分に発揮できる、参画と協働の地域づくりができているか？

WS「未来ある子どもたちのために私ができること」

<セッション2>

- ① 「まなび里」に多様な「まなび人」が参加でき、それぞれが役割をもって活動できるようにするには、どうすればよいか

- ・ 地域住民の役割とはどのようなものか？
- ・ それぞれの力を活かすためにはどうすればよいか？

- ② そのための「まなび力」=人材、組織、仕組みは、どんなものが求められるのか

◆ 人 材：私は何ができるのか

◆ 組 織：私が頼り、支えてくれるのはどんな仲間か

◆ 仕組み：人材や組織がたんばの里で有機的に機能する
仕組みはどんなものか

WS「未来ある子どもたちのために私ができること」

<地域と学校の関わり>

◆どのような関わり方をしてきたのか？

- ・地域の歴史文化学習…地域のことを知り、地域に誇り
- ・登下校見守り活動…気持ちよい挨拶、安全確保
- ・平成たんば塾…子どもの学習支援、居場所
- ・こども食堂…子どもの栄養、居場所
- ・世代間交流…農業体験、職業体験、文化交流など

◆気になるワード…

- ・自分の生きがいとして、楽しみとして関わってきた⇒活躍の場
- ・お互いに「壁」があって関わりにくい⇒組織的な課題
- ・学校は地域活動に関わってくれない(土日など)⇒社会教育の必要性
- ・子どもたちに関わることは、地域を良くすることにつながる⇒地域づくり
- ・地域とはPTAや企業、NPO、団体、警察、消防、福祉機関など多様なステークホルダーの集まり⇒子どもを軸にした共通のアジェンダ
- ・地域の子どもたちが、将来どんな大人になってほしいのか⇒人材育成

ワークショップ

「未来ある子どもたちのために私ができること」

〈セッション1〉

- ① 地域の中で、触れあい・学びあう「機会」はあるか。それはどのようなものか。
- ② それらの「機会」に改善すべき課題はあるか。
- ③ 「まなび里」として結実する可能性はあるか。

【1班】

自治会内、小学校区、地域等で開催される教室やイベントを洗い出し、その中の構成員や事務局（世話人）のことで、広報の方法を話し合う。

【2班】

各人が学びの場、使用できる施設等を書き出しその場での出会いからのつながり、今後の展開等の話をする。

【3班】

各自自治会でのイベントや行事、学校や公共施設でのイベント等を通じての出会い、そこへの参画のきっかけづくりを話し合う。

【4班】

誰もが利用できるフリースペースづくり、集いの場づくりを中心に話し合う。

〈セッション2〉

- ① 「まなび里」に多様な「まなび人」が参加でき、それぞれが役割をもって活動できるようにするには、どうすればよいか。
- ② そのための「まなび力」＝人材、組織、仕組みは、どんなものが求められるのか。
 - ◆人 材：私は何ができるのか。
 - ◆組 織：私が頼り、支えてくれるのはどんな仲間か。
 - ◆仕組み：人材や組織がたんばの里で有機的に機能する仕組みはどんなものか。

【1班】

俳句教室における教える人材はある。組織や教室が多く存在するが、存在を知る仕組みがないのが課題である。市内において、「資格」や「級」などを設置し向上心を刺激して取り組むようになる、市内で認められるという自己実現があればいい。

【2班】

村のイベントはつながりの場、交流の場になるので大事にしないといけない。課題は、役員の負担が大きい。参加者の年齢層が限られている。内容がマンネリ化している。等があげられる。人口が減少してきており、大きな単位である自治協で若者や子どもたちにも企画段階から関わるのがよいのでは、

【3班】

女性と若者が活躍する社会を作っていくにはいけない。そのためには、自治協議会等の活用が必要となる。自治協にとって、自然発生的な活動を起こしそうな人の人事支援収集が大切である。あるいは、情報提供のパイオニア人材の確保も必要である。

【4班】

誰もが気軽に立ち寄ることのフリースペースづくりの中では、ある程度の助け合い、支え合いを意識し、責任を押しつけないという考え方が大事である。お互い様だからこそ、何か問題が起きて相手責任にせず「いいよね」と思える考え方が広がることが重要である。フリースペースづくりが市に広がっていくには、みんなが自分ごととして捉えることが大切である。